

教職支援室便り（10月号）

令和7年10月10日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教員採用選考試験結果と合格者の声

教員採用選考試験の結果が、ほとんどの自治体で発表されました。本学においては、現役生14名（延べ15名）、既卒生5名（延べ5名）（既卒生については把握分のみ）、計19名（延べ20名）が合格しました。延べ20名の校種別の合格者数は、小学校5名、中学校11名、高等学校4名です。今回も高い合格率となりました。

<既卒合格者の声>

もし、曾我先生の教職特別講座がなければ、今の自分はないと思います。講座を受講する前まで、正直自分は教育現場に立つ自信がありませんでした。生徒たちと接する中で、教員として働く中で、どのような心構えが必要になるのかなど、分かっていないことばかりでした。しかし、講座を通して、もちろん教職の知識も身に付き、日に日に自分が先生として教育現場に立つイメージが、つくれるようになってきたのをすごく覚えています。また、現在講師として教育現場で働いていますが、講座の中で友人と話し合ったこと、先生から学んだことすべて役に立っていると強く感じています。そして、二次試験対策講座「先生と一対一で行う面接演習」の中で、自分の良さや自分の教職への思い（今まであまり分かっていなかったもの）を再確認でき、自分に自信が持てました。さらに、模擬授業の対策のときも授業の中での大事な姿勢であったり、先生自身の気を付けている、大切にしている点であったり、様々なことを教えていただき、現在の毎日行う授業の中でも、それも忘れず大事にしています。教職特別講座があったから、本気で先生になりたい、教員採用試験に合格したいと思えたと思います。今年、2回目の教員採用試験に挑戦し、やっと合格し、教員としてのスタートラインに立つことができます。ここで満足するのではなく、これからの毎日を大事にしながら、また生徒と関わることでできる幸せを感じながら、曾我先生のように生徒一人一人を大事にして、幸福感や楽しさを感じてもらえるような先生になれるように、頑張っていきたいと思います。

<現役合格者の声①>

教員採用試験に合格して大変嬉しく、曾我先生、宮内先生をはじめ、二次試験で行われる日本語・英語の集団討論に参加してくれた教職のみんな、家族に対する感謝の気持ちでいっぱいです。二次試験受験後、100%出し切ったという気持ちが大きく、やはり曾我先生との日々の演習が自信につながったと感じています。来年4月から教員として働くことを自覚し、卒業まで残り半年、塾のアルバイト、教員オンライン講座、単位取得を徹底して行っていきたいです。

曾我先生、改めて大変お世話になりました。曾我先生のように生徒のことを1番に想い、考え、生徒に慕われる立派な教員を目指したいです。ありがとうございました。

<現役合格者の声②>

教員採用試験に合格し、安心感と喜びの気持ちでいっぱいです。採用試験に向けてこれまで支えてくださった、曾我先生をはじめとする先生方や仲間に関心から感謝しています。

教職特別講座では、一次試験対策として教職教養に関する多くの過去問を解き、曾我先生や仲間と意見交換を行いながら、自分の中に深く落とし込むことができました。一つ一つの文言に向き合い自分事として考え、曾我先生や仲間と共有することが、視野が広がり、教員になるという自覚と覚悟を強化し、二次試験の面接に直接的に生かされたと実感しています。また二次試験対策では、面接や集団討論の演習を何度も行い、答え方や態度など丁寧で細かな指導を受け、一次試験対策で強めた自分自身の教職に対する知識や思いを乗せて、多様な質問に答える演習をしたため、本番では自信を持って挑むことができました。

これまで私が教員になるという夢を追いかけて、必死になって学んだことや対策したことは、教員になった際にも必ず生かされると思います。この合格が教員人生のスタートになると思っています。これからも、また教員になって以降も学び続けて自分を成長させていきたいです。

<現役合格者の声③>

約1年にわたる教職特別講座でしたが、あっという間に時間が過ぎ去ったように感じます。また、この貴重な講座を通して、自分を大きく成長させられたと考えています。講座が始まって間もない頃は、受動的に講座を受けていたように感じます。しかし、問題意識・課題意識を持ち主体的に講座を取り組み出してから、教職への意欲がいつそう高まり、教職理解を格段に深められました。受験した自治体は、試験日が他の自治体よりも早く、準備が間に合うか焦っていましたが、特別講座や自習を通して効率的に教職教養を深く理解していったように感じます。教職理解が深まると同時に、「早く教師になりたい」という思いが込み上げてきました。生徒指導や教科指導、保護者対応など不安な気持ちはありますが、その一方で「自分ならやれる、がんばろう。」という気持ちもあります。これは、特別講座を熱心に取り組んできたからだと考えています。少しでも生徒によりよい教育を届けるために、常に向上心を持ってがんばっていききたいと思っています。

曾我先生、本当にありがとうございました。

<現役合格者の声④>

教員採用試験に合格したという知らせを受け、中学生の頃から思い描いてきた「教壇に立つ」という夢が、いよいよ現実になることに、心からの喜びを感じました。

教職特別講座では、曾我先生のもとで約1年間にわたり丁寧なご指導をいただきました。教職教養の対策については、この講座の学びだけで十分に対応することができ、本当に感謝しています。試験対策にとどまらず、今後教員としての視座や姿勢を深める貴重な時間となりました。

宮崎公立大学での4年間では、学祭実行委員長として組織をまとめる経験を通じて、統率力を養うことができました。また、日々の授業を通じてリベラルアーツの学びに触れ、多角的・多面的な視点を培うことができたことも、大きな財産です。改めて、宮崎公立大学を選んで本当によかったと実感しています。

この大学で得たすべての学びを、今度は自分の教室で子どもたちに還元し、一人の教育者としての責任と誇りを胸に、子どもたちの未来に貢献していきたいと思っています。

合格者の声については、11月号でも掲載します。

「教職特別講座の思い出」卒業生からの寄稿

卒業生からの便りが来るたびに、学校現場で活躍している彼らを誇らしく思います。そして、授業としての位置付けではない「教職特別講座」ですが、その存在意義を担当者として重く受け止めています。さらに担当者として実感することは、これまでの「教職特別講座」は、自分が予想した以上に、人材育成において有効な取組だったのではないかと思います。そのために、可能な限り講座の時間を確保する中で、意図的・計画的に、多面的・多角的に講座内容を工夫したり、受講者のニーズに十分に応える資料づくりに努めたりしてきました。今後も、多くの方々に「教職特別講座」についてのご理解をいただければと願っています。

そこで、今月号から来年3月号にかけて毎回、「教職特別講座の思い出」をテーマに、卒業生からの寄稿文を掲載していきます。卒業生の皆さんが今、どのように「教職特別講座」を受け止めているのかなど、率直な気持ちや考えを知ることができればと思っています。

今回は、愛媛県新居浜市立泉川中学校の曾我部愛実さんの寄稿文です。お忙しい中、本当にありがとうございました。

令和7年3月卒業
愛媛県新居浜市立泉川中学校 曾我部愛実さん

1学期の集団宿泊体験を終え、2学期に入り体育大会や初任者研修の研究授業を控えているので、ありがたいことに忙しく充実した日々を送らせていただいています。私自身、現在勤務校にて1年3組の学級担任をしています。子どもたちの素直な考えや姿勢に、日々パワーをもらい頑張ることができています。

「教職特別講座の思い出」を振り返って、私が一番大切にしたいと思ったキーワードは「協力」、そして「サポート」です。支えてくださった先生や仲間の存在です。採用試験の内容や教員としての在り方について、教職特別講座においてじっくり仲間と会話をし、議論をすることができたことは、当たり前前の環境ではなかったと感じています。一つの目標に向かって、一人の人間として成長するために、一生懸命勉強をする仲間がいたこと、そして目標を達成し、教員としての志を人一倍持てるように議論の場や面接、問題演習などさまざまな資料や場を提供してくださった先生がいたこと、すべての出会い・環境に感謝だと思っています。この出会いがなければ今の私はありません。今、学級担任をしていてどのような工夫をすれば、一つの学級として集団として、誰ひとり欠けることなく、目標に向かうことができるのか、この答えはいまだ模索中です。しかし、その核心となる答えは、確実に教職特別講座に参加する中で身に付けることができていたのではないかと考えます。まずはどれだけ自分自身ががむしゃらに、熱量を持って子どもたちと接することができているのか、教員にとって必要不可欠なことは100%の思いをきちんと伝え、関わっていくことだと思っています。公立大でこの講座に参加出来た経験を誇りに思っています。

曾我先生、本当にありがとうございました。どうか、身体にはお気をつけてお過ごしください。体育大会、全力で子どもたちの頑張る姿を見てきます。

前期教職支援室活用量「延べ467名」

活用の多くは学生の皆さんですが、中には、卒業生や学校現場の先生方もおられます。学習指導や生徒指導をはじめとする、学校現場の問題や課題は、年々増えているように感じます。今後も本学の「地域貢献」の方針も踏まえ、活用の方々のニーズに応じて、幅広く支援に取り組んでいきたいと思っております。後期の活用も、どうぞよろしくお願いいたします。



道徳の教科化に思う！（シリーズ101）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、7月号からスタートしたテーマ「生きる力をはぐくむ道徳授業の創造～発問や教材(資料)選択を児童にゆだねる道徳の時間の指導の在り方～」の4として、「研究の実際その3：児童の側に立つ学習指導過程の改善と教師の手立て」について掲載します。

＜一つの内容項目についての複数時間配当する道徳の授業計画＞

1 指導計画作成の工夫

- (1) 一つの内容項目について、年間に複数時間配当する場合の年間指導計画上の位置付け
- (2) 複数時間をひとまとまりと考えての各時間の性格付け
- (3) 「ねらい」と児童の活動を中心とした学習方法の位置付け

2 一単位時間の性格付け

- (1) 指導計画における特質に基づく一単位時間の弾力的運用
- (2) 一単位時間の弾力的運用に基づいた児童の活動と教師の支援の在り方

ここまでの内容を、先月号（8月号、9月号）に掲載しました。



＜児童の側に立つ学習指導過程の改善と教師の手立て＞

1 「ねらい」の設定の在り方

本研究においては、一単位時間の「ねらい」の設定について、次の二つの観点から設定することとした。

- 本時の価値に関わる「ねらい」

価値に関わる「ねらい」は、児童の実態や教材の内容から養いたい道徳性のどの様相に重点を置くのか、またどのような気持ちや考え方を育てるかを明確にして設定するものであるが、これはこれまでの考え方を踏襲したものである。

- 主体的な学習能力に関わる「ねらい」

ここでいう主体的な学習能力を具体的に示すと、教材を選択する力、人物の気持ちや考え・行動の仕方等を整理する力、自分の考えを発表したり他の考えに対して質問したりする力、学習したことをもとに学習内容や学習方法についての感想を表現する力などである。

2 児童による教材選択の方法

全員で一教材、グループで一教材、個人で一教材を選択するなど、いくつかの場合が考えられるが、どの場合でも教師が選んで与えるのではなく、児童自身が興味をもち詳しく調べてみたいものを選択できるよう支援することが重要である。

支援のための配慮点として、次の5点を考えた。

- ① 一つの内容項目について、複数の教材を用意する。
- ② 各教材をねらいに即して分析する。
- ③ 読む時間を考慮し、教材の長さや数については検討する。
- ④ 児童に教材選択の視点を示唆する。
 - これまでの体験や経験から
 - 主人公の生き方への感動から
 - 自分もそうありたいという願いから
 - 主人公の生き方への疑問から 等
- ⑤ 教材選択の理由を明確にさせるため、記入用のワークシートを用意する。

3 児童が作り出す発問の工夫

(1) 基本的な考え方

本研究では、児童が作り出す発問で学習が進められることを目指している。ここでいう発問は、児童が自らの力で考え、互いに他と質問し合うものであり、教師の支援は不可欠である。あくまでも、「ねらい」に即した、「ねらい」につながるものとなるよう支援することが重要である。教師の支援に裏打ちされた、児童自らが考えたい発問ということである。

(2) 児童の発問に委ねる意図

児童に発問を委ねる意図は、児童中心の学習活動にすることであるが、それにより話し合い活動が活発になされ、ねらいとする価値について主体的に深く考えようとする意欲を高めたい。さらには、児童が学ぶ意欲をもち、自己の思考力や判断力を深め、確かな表現力を身に付け、学習の成就感を真に味わえることを願いたい。

4 ワークシートの内容の工夫

(1) 基本的な考え方

ワークシートは、児童が主人公の生き方について整理したり、発問を作り出したりするために活用するものである。つまり、教師が教材に適した自力学習のための手立てとして使うものであり、支援を実際に行うための重要なものである。

(2) ワークシートの内容

① 主人公の生き方を整理する視点を与えるワークシートの内容

- ☆ そのときの状況
- ☆ 道徳的行為への迷い
- ☆ 道徳的行為への動機
- ☆ 道徳的行為の中の考え方
- ☆ 道徳的行為の後の気持ち
- ☆ 主人公の道徳的行為に対する自分の感じ方
等について記入する。

② 発問を作り出すための視点を与えるワークシートの内容

- ☆ 主人公の道徳的行為に対しての評価
- ☆ 自分の考え方の変化
- ☆ 疑問に思ったこと
- ☆ 同教材において自分の考えと異なった考えへの質問
- ☆ 他教材への質問 等について記入する。

